

「人々の健康生活」の実現をめざします

vol. 35
2024.9

中支部だより

広島県看護協会中支部会員数	
保健師	44人(入会率26%)
助産師	103人(入会率79%)
看護師	2,894人(入会率63%)
准看護師	34人(入会率6%)
合計	3,075人(入会率56%)

中支部長
ごあいさつ

看護職として専門性を発揮し、 社会の期待に応える地域活動をめざして

広島中支部長 垣田 みどり
(広島赤十字・原爆病院)

広島県看護協会広島中支部会員の皆様におかれましては、平素より支部事業の円滑な運営にご理解とご協力いただき、誠にありがとうございます。昨年に引き続き、中支部支部長を務めさせていただきます、垣田みどりでございます。5名の役員が交代し新体制となりました。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

コロナ感染症が5類に移行し、中支部活動が1年間を通じて、感染流行以前のように、研修会などが実施でき大変うれしく思っております。混沌としたコロナ禍の状況下で、看護職として「看護の本質」を考える機会となりました。医療・介護を取りまく社会情勢が大きく変化し、人々のニーズも複雑化・多様化しています。さらに少子高齢化を迎え、看護職の人材の確保が困難となっています。看護職が就業継続し専門職としての役割を発揮するためには、医療DXの導入などによる業務の効率化に取り組み、職場環境の改善を推し進めることが不可欠です。

令和6年度、広島県看護協会の重点事項には、「看護職の人材確保と定着推進」「地域包括ケアシステムの強化に向けた取り組みの推進」「災害時看護支援体制の整備及び感染症対応力の強化」が掲げられています。今年度から、災害支援ナース(災害・新興感染症対応)の応援派遣体制が始まります。令和6年度の支部研修事業として「災害支援ナースの活動や役割について」の研修を予定しています。

また、医師の働き方改革によりタスクシフトが推進される中、看護職に専門職としての期待が益々大きくなっています。健康相談や健康指導を行うなど、地域看護事業を通じて地域に貢献できる事業を展開してまいります。

2024年度の看護の日のテーマは「さあ、看護の未来を見つけにいこう」です。中支部会員の皆様とともに重点課題に沿った、課題解決に取り組んでまいりたいと思います。会員の皆様からの忌憚のないご意見やご提案を伺いながら事業推進に努める所存でございます。今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

★ 新役員紹介 ★

副支部長
森 麻美
(たかの橋中央病院)

副支部長を担当させていただきます。皆様のご支援をいただきながら努めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

幹事
沖本 由布子
(広島記念病院)

初めての役員で不慣れなことも多々あると思いますが、精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。

幹事
曾根 知恵
(中電病院)

皆様のお力を借りて頑張ります。よろしくお願いいたします。

幹事
河村 知恵
(土谷総合病院)

初めて役員をさせていただきます。一生懸命頑張ります。よろしくお願いいたします。

幹事
有田 恵理
(吉島病院)

初めて役員をさせていただきます。わからないことばかりですが、一生懸命頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



令和6年度 役員全員集合

令和5年度 事業報告

REPORT 01

中支部交流会 「日常に彩を、ココロに栄養を! ハーバリウムに挑戦!!」

講師 日本ハーバリウム協会 講師 下桑田 典子 先生

日時 / 令和6年4月20日(土)

場所 / 広島県看護協会

初めてのハーバリウムボールペン作り! 仲間と作る時間はとても楽しいものでした。

個性ある彩りのボールペンから、癒しを感じました。出来上がったボールペンで書く時間を楽しい時間を味わっています。

広島はくしま病院 川原 みちよ



初挑戦に不安もありましたが、説明を受け花やパールを選び始めると、自然に会話が弾みどのテーブルも笑顔や笑いに包まれていきました。色、配色など三者三様で、個性あふれる素敵なボールペンが完成し楽しいひと時となりました。

広島市立広島市民病院 植田 明子



REPORT 02

社会経済福祉研修会 「マインドフルネス~今よりラクに働くコツ~」

講師 草津病院 精神保健福祉士 土師 裕子 先生

日時 / 令和5年9月16日(土)

場所 / 広島市立広島市民病院



瞑想で「今、ここ」の自分を観察していると、からだや心の反応に気づけ、ふっつと肩の力がぬける感覚を味わえました。せわしない日々のなかで、自分をケアするツールの一つになればと思います。職場でも共有していきたいです。

広島赤十字・原爆病院 三浦 真衣

私は、心にダメージを受ける出来事があると、くよくよと思い悩むことがあります。そのような時には、今回学んだ手軽にできる呼吸の瞑想を活用して、心のさまよいを少なくして、集中力アップに繋げたいと思います。

広島市立舟入市民病院 今川 美幸

REPORT 03

救急蘇生(初級コース)研修会

講師 広島市立広島市民病院 救急看護認定看護師 笠井 有希 先生

日時 / 令和5年10月7日(土)

場所 / 広島市立広島市民病院

今回救急蘇生の研修を通して継続的且つ効果的な処置を行う必要性を学ぶことができました。実際に胸骨圧迫してみると疲労や不安を感じましたが、周囲の人と協力することで実際に負担が減ったように感じました。緊急時基本的な技術を冷静に正しく行えるよう努めたいと思います。

広島中央リハビリテーション病院 坂本 愛実



REPORT 04

組織強化研修会 (中支部研修会) 「医療現場に必要なLGBTQの理解を深める」

講師 修道大学 人文学部 教授 河川 和也 先生

日時 / 令和5年11月19日(日)

場所 / 広島市立広島市民病院

研修では基本的知識から、性的マイノリティの方達が直面している問題まで、わかりやすくご講義いただきました。マイノリティの方は受診行動の際、多くのハードルがあることを知るとともに、同僚にも悩みを抱えた者がいると思いました。働き手が減るこの先、全ての人が自分らしく生活するためには、社会全体で取り組む課題だと改めて感じました。

広島記念病院 酒井 美明



研修に参加し、LGBTQの現状を理解し、医療サポートを学ぶことができた。現在の医療環境ではLGBTQの対象に配慮した環境とはいいがたいが、この研修での学びを生かし、日々の看護にあたり、個性性を重視した対応を心掛けた。

広島はくしま病院 川原 みちよ



REPORT 05

関連職種研修会 「各施設で考えるBCP」

講師 広島市危機管理室 危機管理課 富川 一樹 先生
 広島地方気象台 要配慮者対策係 佐内 理恵 先生
 広島赤十字・原爆病院 災害看護専門看護師 石崎 ゆかり 先生

日時 / 令和5年12月9日(土)

場所 / 広島市立広島市民病院

今回「各施設で考えるBCP」という関連職種研修会に参加させていただきました。当院でもBCPを策定しているのですが、他施設の取り組みはもとより、市役所、気象台という日頃関わることのない職種の方のお話を聞くことができ、防災対策を考えていく上でとても参考になりました。ありがとうございました。

広島市立広島市民病院 原 浩美



日頃からBCPIに沿った訓練を繰り返し行い、あらゆる事態の対応できるようになることが、患者だけでなく自分たちを守ることに繋がる事を学びました。災害はいつ起こるか分かりません。その時に全ての人が対応できるようにしていきたいです。

中電病院 濱田 佳江

REPORT 06

看護研究・業績発表会

講師(指導教員) 広島文化学園大学 教授 佐藤 敦子 先生

日時 / 令和6年2月17日(土)

場所 / 広島市立広島市民病院

看護研究発表会に参加させていただき、発表された他病院の研究から多くの学びがありました。

特に新型コロナウイルスの感染対策や手指消毒の必要性、医療に関わるスタッフのストレスなど精神面についても研究発表を通して自分に置き換えて考える場面が多くありました。

他病院の実践している看護や現状から研究によってどのように変わったのか効果を知ることができたため、自分の病院でより良い看護が提供できるよう向上心を持って取り組み続けていくことが大切だと改めて実感しました。

広島中央リハビリテーション病院 横井 もも



令和6年度 事業計画

令和6年9月21日(土)	社会経済福祉研修会
令和6年10月5日(土)	救急蘇生研修会
令和6年11月16日(土)	支部研修会・組織強化研修会
令和6年12月14日(土)	関連職種地域連携研修会
令和7年2月8日(土)	看護研究発表会

輝きびと
見つけた

能登半島地震での災害支援ナースの活動

たかの橋中央病院 谷増 えり

私自身、幼少期に震災で避難所生活を経験しました。その経験で看護学生の時には災害看護に興味を持ちました。災害拠点ではない病院で災害看護にどう関わればよいかと思っていた時に災害支援ナースを知り、登録を行いました。

能登半島地震が起きた今年、初めて派遣依頼を受け、金沢市で支援活動を行いました。

1.5次避難ということで輪島、珠洲からの避難者の受け入れを行っていました。地域の特性上、高齢者率が50%前後と高く、避難者の多くが高齢者でした。活動中は主にバイタル測定、フットケア、内服管理を行いました。

認知機能の低下などが理由に、内服の自己管理ができない入所の方も多く、内服薬を手渡したり、カレンダーで内服管理を行っている避難者の方へ声掛けをしたりしました。避難所では保健師の依頼があり看護介入をしていますが、看護の介入が必要となっていない避難者の方へ声掛けを行っていくと、内服できていなかったり、内服の管理方法が合っていないかったりしていました。そのため、保健師の方へ情報を伝え連携を取りました。

普段の観察力がとても大切だと思う場面もありました。避難者とのコミュニケーションの中で短距離歩行時に呼吸促拍や喘鳴があり下肢浮腫著明な症状がみられていま

た。他の支援ナースの方と相談の後、診察を依頼し心不全兆候があるため医療機関の受診へとつなげることができました。

多く行き交う情報の中、整理し、優先順位をつけて簡素に伝えていく重要性を強く感じました。短期間の活動中にどう解決していくか、解決出来ない時、次の支援者へどうつなげるか、伝える方法や言葉の選択の重要性を考えさせられました。

今回の活動では普段できない経験をさせてもらいました。支援ナースが活動しているということは、災害が起こっているということです。無い事を祈りつつ、今後、災害が起こった際、要請があれば、今回の経験と日々の経験活かして参加をしたいと思います。



編集後記

中支部だよりをお読みいただきありがとうございます。会員の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルス感染症が5類感染症となって1年が経ち、日常が戻ってきました。研修会などの活動の中で、人との繋がり大切さを実感しています。今後も皆様とお会いできることを楽しみにしています。

曾根 知恵

[発行日] 令和6年9月1日発行

[発行所] 公益社団法人広島県看護協会 広島中支部事務所
〒730-0051 広島市中区大手町4-6-11 ミニニューカーザ310号
TEL/FAX 082-248-2500
E-mail: s-naka@nurse-hiroshima.or.jp

[発行責任者] 垣田 みどり